

専門医 8人が明かす!! 高齢者の入院

# 病名・年齢に 薬の

高血圧は65歳で見直そう  
糖尿病は70代から減薬や薬の変更を  
脂質異常症は副作用で急性腎不全や心停止の危険性も  
不眠症は日中の眠気やもの忘れは薬が原因…



薬尾七臣さん

「ふらつきや眠気、  
だるさがあつて、上  
の血圧が100mmHg  
以下なら低血圧の可  
能性あり」

異常症」に「不眠症」を加  
えた四つの病気について、  
薬との付き合い方を専門医  
に聞いた。

**高血圧**  
降圧目標は  
75歳を境に変わる

「高齢者高血圧診療ガイド  
ライン」では、血圧を下げ  
る目標値は、75歳を境にし  
て異なる（下の表参照）。

器具内科学教授の薬尾七臣さん  
は、「74歳までは若いころ  
と同じように低めの血圧を  
目指し、その後は血圧の変  
動などを見ながら調整す  
る」という。

だが、最初  
に見直すべき  
タイミングは、  
それよりも早  
い65歳前後を  
勧める。そ  
の年齢で人生の  
節目を迎える  
人が多く、血  
圧は環境変化  
などのストレ  
スでも大きく

高齢者の血圧は、上の血  
圧（収縮期血圧）の振れ幅  
が若いころより大きいのが  
特徴。血管の柔らかさが失  
われ、動脈硬化が進むから  
だ。そのため、高齢者の血  
圧のコントロールは低血圧  
にも気を配る必要がある。  
とくに、立ち上がったとき  
に生じる「起立性低血圧」  
や、食事の後に起こる「食  
後低血圧」に注意したい。  
「血圧は常に一定ではなく、  
自律神経の働きなどで一日  
のなかでも変動します。血  
圧が低くなりすぎると脳や  
腎臓などの臓器に流れる血  
液の量が足りなくなる、い  
わゆる「虚血状態」に陥り  
やすいのです」（薬尾さん）

虚血状態はどんな問題を  
もたらすのか。2015年に  
アメリカの医学雑誌「The  
New England Journal of  
Medicine」に発表された  
「SPRINT試験」では、  
上の血圧の目標を120  
mmHg未満（単位は以下略）に  
した群と140未満にした  
群とで比較。心筋梗塞や脳  
卒中の発症率や死亡率は1  
20群のほうが低かつたが、  
低血圧や腎不全などの副作

の5~10%は薬の副作用が原因

# みるやめどき

薬は、「治る（予防する）利点」と「副作用などのリスク」をてんびんにかけて、利点がリスクを上回ったときに飲むもの。薬によって健康寿命を損なうとしたら本末転倒だ。高齢になつたら日々飲んでいる薬との付き合い方も変えたほうがいいことがわかつた。



調査  
入院理由の5~10%が、  
薬の副作用でした

長尾和宏さん  
「服薬を続けている  
人は、75歳、80歳ぐ  
らいになつたら一度  
減薬を考えて」

新田國夫さん  
「80歳では3割がフ  
レイルという虚弱状  
態。体力や筋力低  
下が起こってきたら、  
薬の見直しを」

「75歳ではひとケタ、75  
歳が14%、80歳になると  
30%、85歳だと50%の方が  
フレイルという虚弱な状態  
に陥ります。3割は大きく、  
そのころが見直しのタイミ  
ングだと考えています」

日本老年医学会は、昨年、



65歳以上の生活習慣病の治  
療方針を示した「高齢者高  
血圧診療ガイドライン2017」  
などを公表。これらを踏まえ、  
「高血圧」「糖尿病」「脂質

高血圧

など

の

「個人差はあります  
が、高

齢になると腎臓、肝臓の機  
能が落ちてきて、薬を解毒、  
して排せつする能力「薬物  
代謝」も衰えてくる。薬の  
成分がいつまでも体内に残  
ってしまうので、副作用が  
相談することが大切です」

と徳田さんは言う。

慣病の薬は、動脈硬化など  
によつて起つる脳梗塞や心  
筋梗塞、狭心症などの致死  
性の病気を予防することが  
最大の目的。こうした薬の  
予防効果が現れるのは5年、  
10年先。平均寿命を前提に  
すれば、高齢になるほど致  
死性の病気を予防するとい  
う利点は小さくなります」

徳田さんらが以前、高齢  
者の入院理由を調べたとこ  
ろ、驚くべきことに5~10  
%が薬の副作用だった。

「高齢になるほど利点は少  
なくなり、リスクが大きくな  
る可能性がある。そのバ  
ランスについては個人差も  
あるので、かかりつけ医と  
相談することが大切です」

と徳田さんは言う。

一方、東京都国立市を中

心に高齢者の診療にあたる、

新田クリニック院長の新田

國夫さんは、「一般的な医

師の考え方とは違うかもしれ

ませんが、減薬を始めるの

は80歳ぐらいだと考えてい

ます」という。

「75歳ではひとケタ、75

歳が14%、80歳になると  
30%、85歳だと50%の方が  
フレイルという虚弱な状態  
に陥ります。3割は大きく、  
そのころが見直しのタイミ  
ングだと考えています」

日本老年医学会は、昨年、

65歳以上の生活習慣病の治

療方針を示した「高齢者高

血圧診療ガイドライン2017」  
などを公表。これらを踏まえ、  
「高血圧」「糖尿病」「脂質

高血圧

など

の

「個人差はありますが、高

齢になると腎臓、肝臓の機

能が落ちてきて、薬を解毒、  
して排せつする能力「薬物

代謝」も衰えてくる。薬の

成分がいつまでも体内に残  
ってしまうので、副作用が  
強まるのです」

一方、東京都国立市を中

心に高齢者の診療にあたる、

新田クリニック院長の新田

國夫さんは、「一般的な医

師の考え方とは違うかもしれ

ませんが、減薬を始めるの

は80歳ぐらいだと考えてい

ます」という。

「75歳ではひとケタ、75

歳が14%、80歳になると  
30%、85歳だと50%の方が  
フレイルという虚弱な状態  
に陥ります。3割は大きく、  
そのころが見直しのタイミ  
ングだと考えています」

日本老年医学会は、昨年、

65歳以上の生活習慣病の治

療方針を示した「高齢者高

血圧診療ガイドライン2017」  
などを公表。これらを踏まえ、  
「高血圧」「糖尿病」「脂質

高血圧

など

の

「個人差はありますが、高

齢になると腎臓、肝臓の機

能が落ちてきて、薬を解毒、  
して排せつする能力「薬物

代謝」も衰えてくる。薬の

成分がいつまでも体内に残  
てしまうので、副作用が  
強まるのです」

一方、東京都国立市を中

心に高齢者の診療にあたる、

新田クリニック院長の新田

國夫さんは、「一般的な医

師の考え方とは違うかもしれ

ませんが、減薬を始めるの

は80歳ぐらいだと考えてい

ます」という。

「75歳ではひとケタ、75

歳が14%、80歳になると  
30%、85歳だと50%の方が  
フレイルという虚弱な状態  
に陥ります。3割は大きく、  
そのころが見直しのタイミ  
ングだと考えています」

日本老年医学会は、昨年、

65歳以上の生活習慣病の治

療方針を示した「高齢者高

血圧診療ガイドライン2017」  
などを公表。これらを踏まえ、  
「高血圧」「糖尿病」「脂質

高血圧

など

の

「個人差はありますが、高

齢になると腎臓、肝臓の機

能が落ちてきて、薬を解毒、  
して排せつする能力「薬物

代謝」も衰えてくる。薬の

成分がいつまでも体内に残  
てしまうので、副作用が  
強まるのです」

一方、東京都国立市を中

心に高齢者の診療にあたる、

新田クリニック院長の新田

國夫さんは、「一般的な医

師の考え方とは違うかもしれ

ませんが、減薬を始めるの

は80歳ぐらいだと考えてい

ます」という。

「75歳ではひとケタ、75

歳が14%、80歳になると  
30%、85歳だと50%の方が  
フレイルという虚弱な状態  
に陥ります。3割は大きく、  
そのころが見直しのタイミ  
ングだと考えています」

日本老年医学会は、昨年、

65歳以上の生活習慣病の治

療方針を示した「高齢者高

血圧診療ガイドライン2017」  
などを公表。これらを踏まえ、  
「高血圧」「糖尿病」「脂質

高血圧

など

の

「個人差はありますが、高

齢になると腎臓、肝臓の機

能が落ちてきて、薬を解毒、  
して排せつする能力「薬物

代謝」も衰えてくる。薬の

成分がいつまでも体内に残  
てしまうので、副作用が  
強まるのです」

一方、東京都国立市を中

心に高齢者の診療にあたる、

新田クリニック院長の新田

國夫さんは、「一般的な医

師の考え方とは違うかもしれ

ませんが、減薬を始めるの

は80歳ぐらいだと考えてい

ます」という。

「75歳ではひとケタ、75

歳が14%、80歳になると  
30%、85歳だと50%の方が  
フレイルという虚弱な状態  
に陥ります。3割は大きく、  
そのころが見直しのタイミ  
ングだと考えています」

日本老年医学会は、昨年、

65歳以上の生活習慣病の治

療方針を示した「高齢者高

血圧診療ガイドライン2017」  
などを公表。これらを踏まえ、  
「高血圧」「糖尿病」「脂質

高血圧

など

の

「個人差はありますが、高

齢になると腎臓、肝臓の機

能が落ちてきて、薬を解毒、  
して排せつする能力「薬物

代謝」も衰えてくる。薬の

成分がいつまでも体内に残  
てしまうので、副作用が  
強まるのです」

一方、東京都国立市を中

心に高齢者の診療にあたる、

新田クリニック院長の新田

國夫さんは、「一般的な医

師の考え方とは違うかもしれ

ませんが、減薬を始めるの

は80歳ぐらいだと考えてい

ます」という。

「75歳ではひとケタ、75

歳が14%、80歳になると  
30%、85歳だと50%の方が  
フレイルという虚弱な状態  
に陥ります。3割は大きく、  
そのころが見直しのタイミ  
ングだと考えています」

日本老年医学会は、昨年、

65歳以上の生活習慣病の治

療方針を示した「高齢者高

血圧診療ガイドライン2017」  
などを公表。これらを踏まえ、  
「高血圧」「糖尿病」「脂質

高血圧

など

の

「個人差はありますが、高

齢になると腎臓、肝臓の機

能が落ちてきて、薬を解毒、  
して排せつする能力「薬物

代謝」も衰えてくる。薬の

成分がいつまでも体内に残  
てしまうので、副作用が  
強まるのです」

一方、東京都国立市を中

心に高齢者の診療にあたる、

新田クリニック院長の新田

國夫さんは、「一般的な医

師の考え方とは違うかもしれ

ませんが、減薬を始めるの

**田中圭** 3500字インタビュー“男も惚れる男、  
&グラビア&特集

# 週刊朝日

11・2  
400円  
田中圭

消費増税に  
負けない得技!

深睡眠を得るコツ

病名・年齢でみる

## 薬のやめどき

高血圧/脂質異常症/糖尿病/不眠症…